MJ 無線と実験 AUDIO TECHNOLOGY
オーディオ総合月刊誌
2014年1月号別冊付録
2013年12月10日発行・発売　第101巻第1号　通巻1091号

## 各メーカー出力&電源トランスと内外10機種の試聴

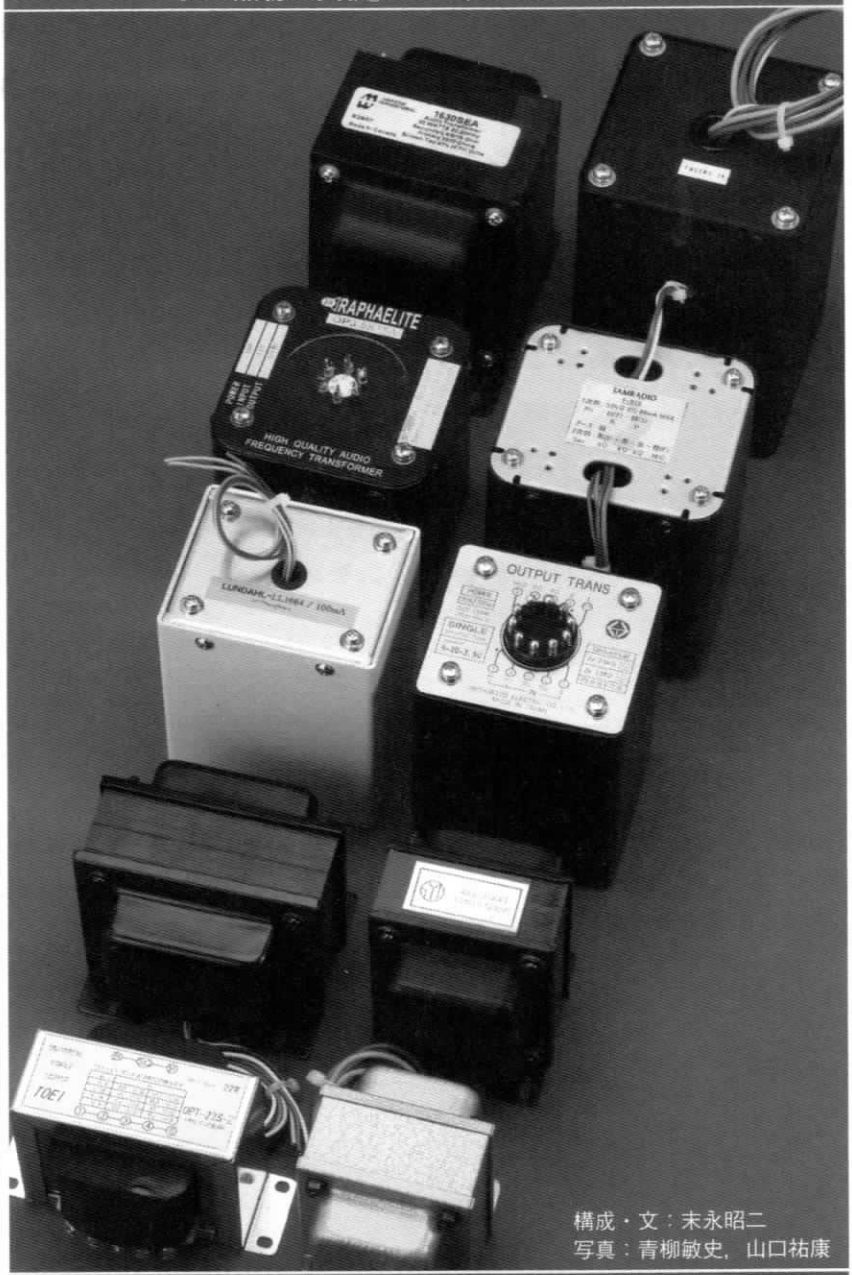
# 真空管アンプ用トランスガイド

誠文堂新光社

各メーカー出力&電源トランスと
内外10機種の試聴

# 真空管アンプ用トランスガイド

『MJ無線と実験』2014年1月号別冊付録




構成・文：末永昭二
写真：青柳敏史，山口祐康

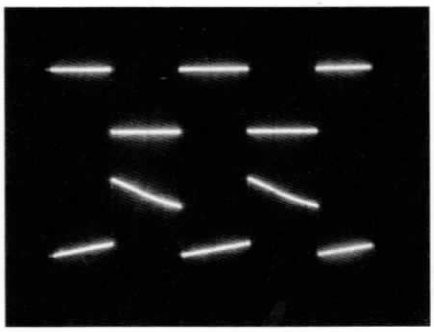
目次

2 微妙な音質の差を聴き分けるために
出力トランスの試聴条件

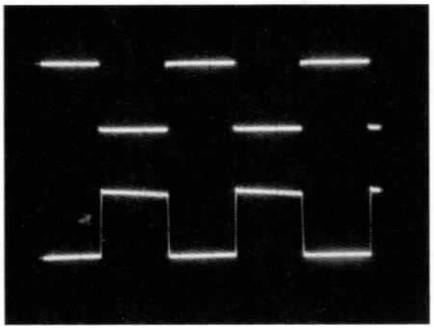
4 トランス以外の色付けを極力排した
トランス試聴用300Bシングルパワーアンプ

6 内外出力トランス10機種の試聴
岩村保雄／征矢　進／柳沢正史

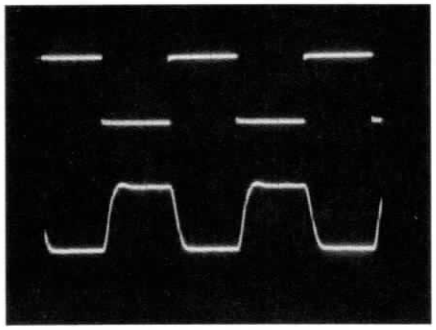
26 内外13ブランドの真空管アンプ用
出力トランス・電源トランスカタログ



100Hz



1kHz

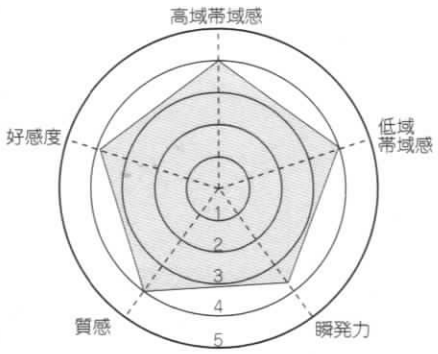


10kHz

試験機で観測した方形波応答（上：入力，下：出力）

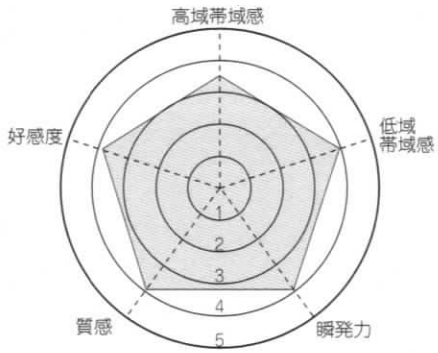
# Impression

## 岩村保雄



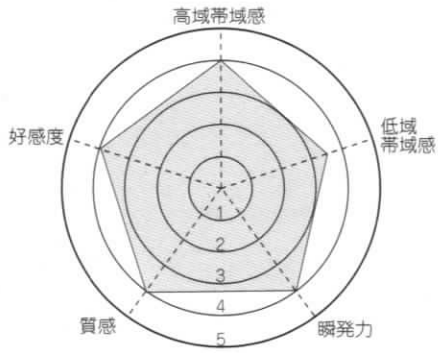

バランスがよく，楽器の質感を十分表現できていると感じた．特にサックスが印象的で，ヴォーカルも甘くしっとりと聴けた．オーケストラの合奏ではハーモニーの響きだけでなく，厚みも感じられた．ただ，ピアノではみずみずしい表現だったものの，もう少しキータッチが明瞭だったらよかったのだが．低価格帯では一番印象に残った．

## 征矢　進




高域端がやや抑えられ気味に感じた．そのためか，エネルギーバランスは低域寄りになっており，力強い低域には魅力を感じる．音像は引っ込み気味で，ヴォーカルはハスキーな印象を受けた．ピアノのアタックは若干弱い．広がり感と奥行き感は十分感じることができた．

## 柳沢正史




サウンドの傾向は春日無線に似ているが，こちらは若干ハイ寄り．エヴィンソンのヴォーカルはほどよく潤いがあり，好印象だ．メイバーンのピアノの立ち上がりはシャープで，ハイハットのリズムも明快．Totti Berghのテナーも太く存在感がある．ハーンのヴァイオリンは品性があり，オーケストラはエナジー感に溢れる．こちらも，コストパフォーマンス大である．

別冊付録「真空管アンプ用トランスガイド」のための試聴を終えて

# 「どれも使える！」内外出力トランスの真価を試聴で評価する

「抵抗・コンデンサー」，「電圧増幅管」，「300Bと2A3」と続いてきた試聴シリーズの別冊付録第４弾は，『真空管アンプ用トランスガイド』です．300Bシングルアンプ用の出力トランス10機種について，征矢進氏製作の試聴用アンプで試聴した結果を中心に，内外メーカーの出力トランスと電源トランスのカタログをまとめました．同じアンプでトランスを載せ換えて試聴する機会はなかなかありません．トランス以外の条件をすべて固定して，トランスだけの純粋な違いはどれくらいあるのか，そして各社のトランスの実力は？　試聴を終えた岩村保雄，征矢進，柳沢正史氏に感想を語っていただきました．

各メーカー出力＆電源トランスと内外10機種の試聴
**真空管アンプ用トランスガイド**
『MJ無線と実験』2014年１月号別冊付録
A5判32ページ

## 広がる選択肢

**柳沢**　今日の試聴でまず感じたことは，１万円台のトランス，具体的にいうと春日無線，東栄変成器，それから染谷電子の製品が十分に健闘したということです．いやあ，驚きました．今回の条件に限っていえば１万円前後のものと数万円のものとの差はわずかだと思いました．もちろん，価格の高いトランスにはそれに見合った良さがありますが，今回の試聴で，ブランドや見た目ではなく，読者のみなさんに安心しておすすめできる範囲が広がったように思います．

**岩村**　アイエスオーの廃業は暗いニュースでしたが，一方では中国製のラファエル，染谷電子のニューモデルなど明るいニュースもあります．また，一部の人たちに，特にインターネットで評価されていたものの，本誌にはあまり登場したことがない春日無線や東栄変成器の真価を検証できたのは収穫でした．アンプには「いくらでもお金をかけていいアンプ」と「あまりお金がかけられないアンプ」があると思いますが，トランスをはじめ，部品をうまく選べば，安価に作ったアンプでもかなりいい勝負ができるのではないかというのが感想です．

左から征矢進氏，柳沢正史氏，岩村保雄氏

**征矢**　今回試聴したものの中では，値段と音には相関関係がないようです．求める音とコストは別と考えたほうがよいでしょう．自分の出したい音に近づくためのトランス選びに，今回の試聴がいくらかでも方向を示すことができたらいいと思います．その一方で，今回の試聴用アンプは私が作りましたが，アンプは回